

沖縄からの農林水産物・食品の 輸出の状況と取組について

平成31年3月

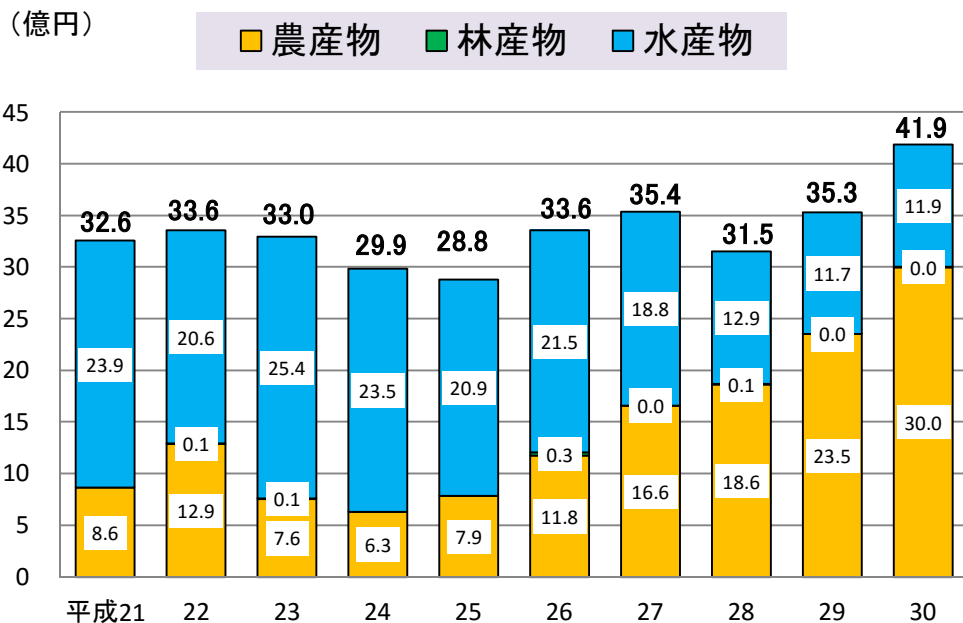
内閣府沖縄総合事務局農林水産部

1 沖縄からの農林水産物・食品の輸出状況

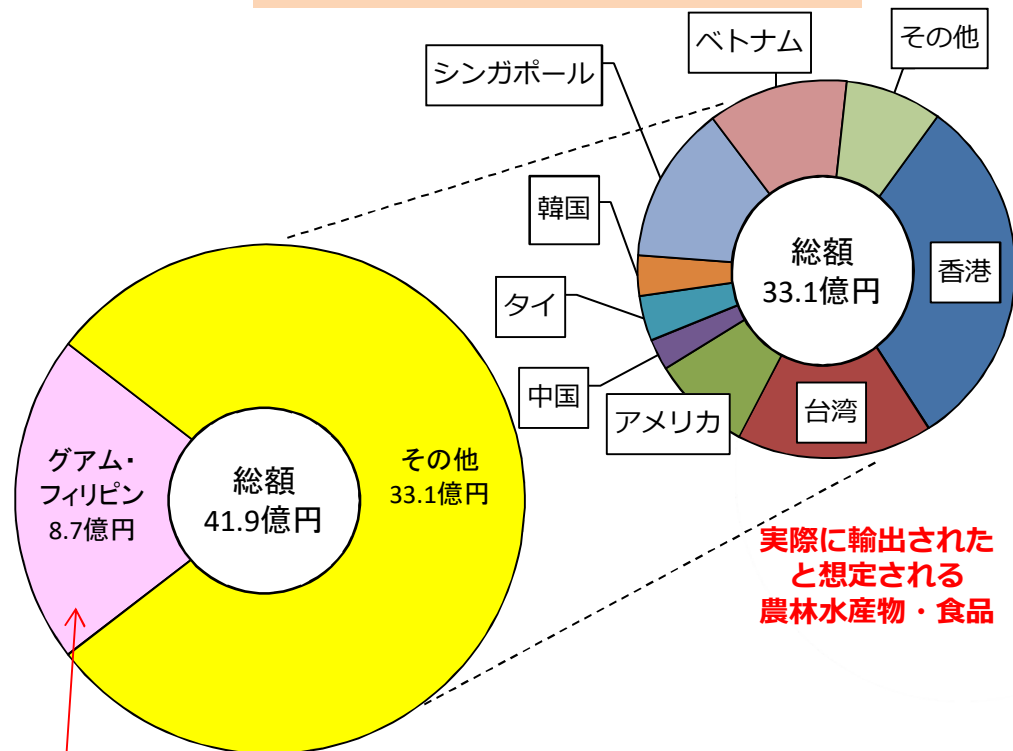
① 全体概況について

- 平成30年の沖縄からの農林水産物・食品の輸出額は、41.9億円。
- このうち、約9億円を占めるグアム及びフィリピン向けの輸出額は、水産物（主にマグロ）を海外で直接水揚げしたことで輸出扱いとなる額であり、これを除いた輸出額「実際に沖縄から輸出されたと想定される輸出額」は33.1億円。

○沖縄からの輸出額の推移



○輸出先国・地域別内訳（平成30年）



実際に輸出されたと想定される農林水産物・食品

当該国・地域で水揚げされたと想定される水産物（主にマグロ類）

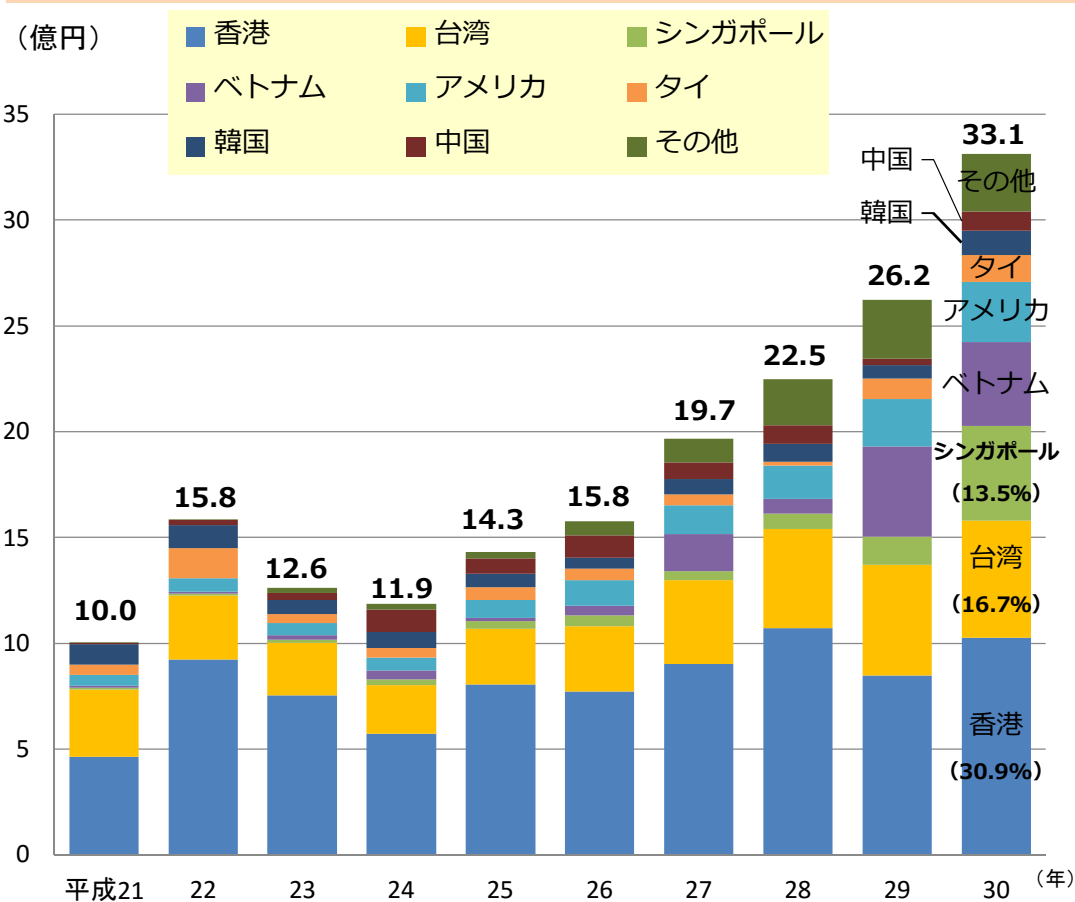
速報値 (未)	輸出額		
	(総額)	うち農林水産物・食品	割合
全国（前年比）	814,866億円 (+4.1%)	9,068億円 (+12.4%)	1.11%
沖縄（前年比）	291億円 (-10.0%)	41.9億円 (+18.7%)	14.4%
		【グアム・フィリピンを除く】 33.1億円 (+26.4%)	11.4%

資料：財務省貿易統計「沖縄地区税関」管内から作成（以下5ページまで同様）

② 輸出先国・地域別の輸出額推移

- 「実際に沖縄から輸出されたと想定される農林水産物・食品の輸出額」は、近年増加傾向で推移し、33.1億円（対前年比26.4%増）となっている。
- 国・地域別の構成を見ると、香港向けが10.2億円（30.9%）、次いで台湾向けが5.5億円（16.7%）、シンガポール向けが4.5億円（13.5%）で第3位となっている。

○ 沖縄からの輸出額の推移（国・地域別） （グアム・フィリピンを除く）



（百万円）

	平成 21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
香港	463	922	754	572	804	772	903	1,072	846	1,024
台湾	318	303	246	230	264	308	394	466	525	555
シンガポール	8	10	18	26	36	51	45	75	133	448
ベトナム	9	8	21	43	15	47	173	69	426	397
アメリカ	53	65	56	60	86	122	137	158	222	283
タイ	49	142	43	46	60	52	52	19	100	128
韓国	94	107	67	76	65	51	72	82	61	116
中国	9	24	34	106	72	106	80	88	33	88
その他	1	1	23	28	31	69	111	218	276	274
合計	1,003	1,583	1,262	1,187	1,432	1,578	1,967	2,247	2,622	3,313

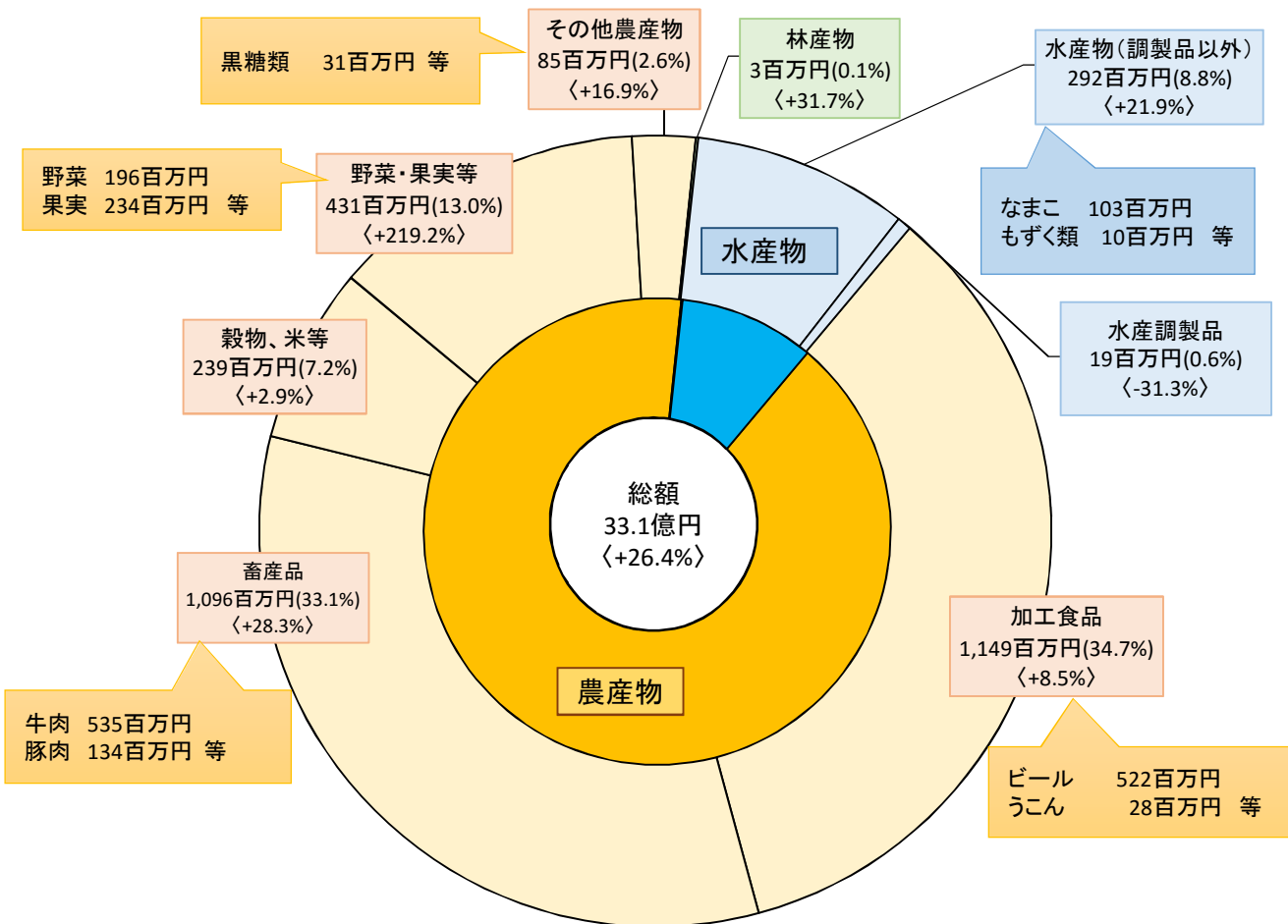
（参考）

グアム	1643	1255	1517	1610	1445	1733	1571	907	907	875
フィリピン	610	519	519	190	7	44	0	0	0	0

③ 品目別の輸出額推移

○ 品目別内訳は、加工食品が11.5億円（34.7%）、畜産品が11.0億円（33.1%）、野菜・果実が4.3億円（13.0%）、調製品を除いた水産物が2.9億円（8.8%）となっている。

○ 品目別内訳（平成30年）



(参考) アジア向け輸出の概要



注: 単位は百万円

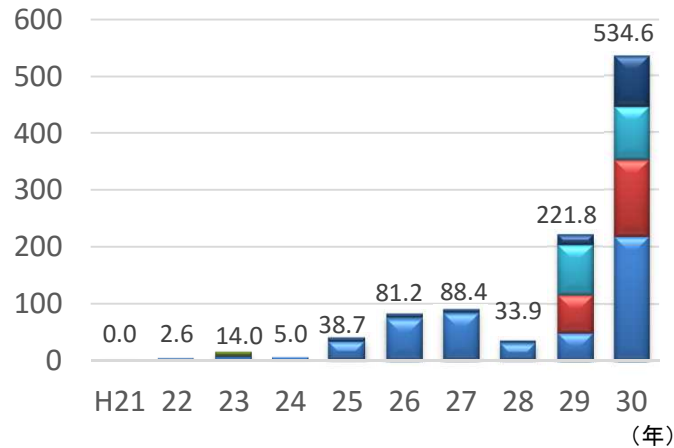
()内は輸出額に占める割合

< >内は対前年比

③ - 1 主な品目の輸出状況（牛肉・豚肉・野菜・果実・黒糖・うこん）

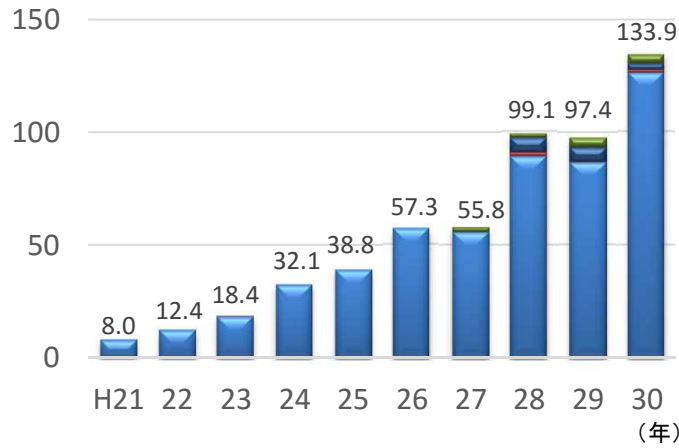
牛肉

(百万円)



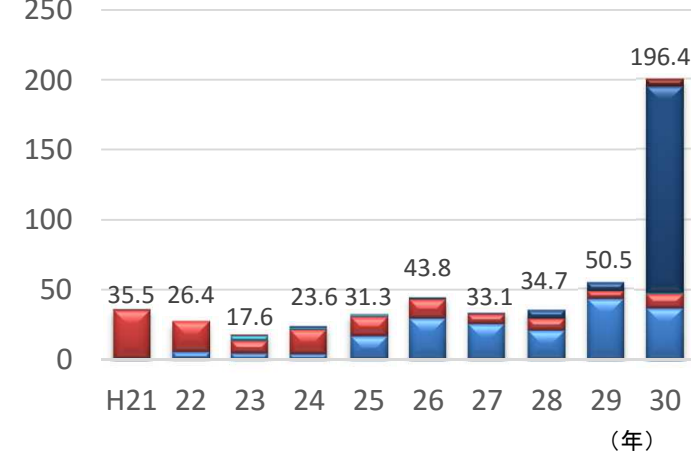
豚肉

(百万円)



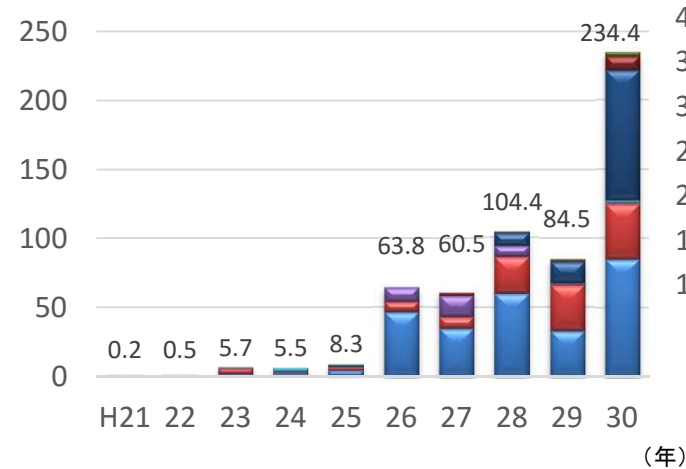
野菜

(百万円)



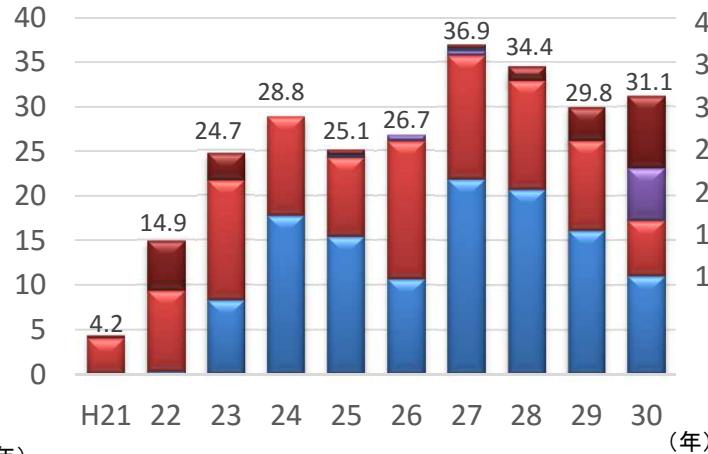
果実

(百万円)



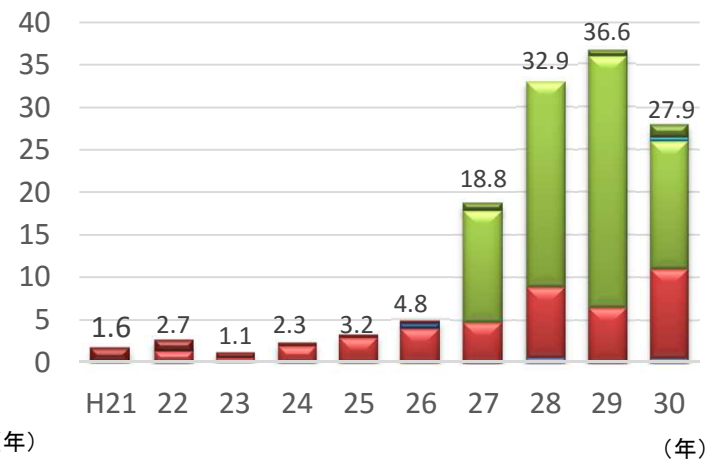
黒糖

(百万円)



うこん

(百万円)

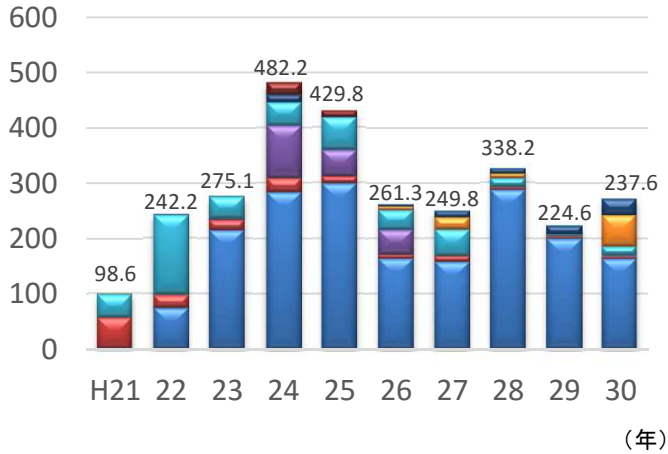


■ 香港 ■ 台湾 ■ アメリカ ■ 中国 ■ タイ ■ ベトナム ■ シンガポール ■ 韓国 ■ その他

③-2 主な品目の輸出状況（魚介類・なまこ・もずく類・ビール）

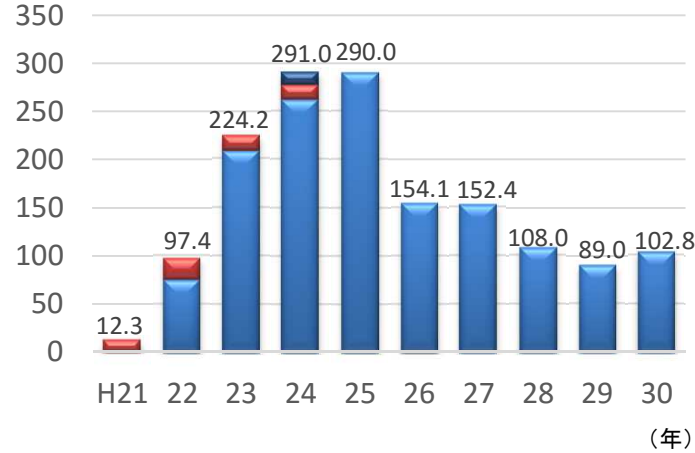
魚介類

(百万円)



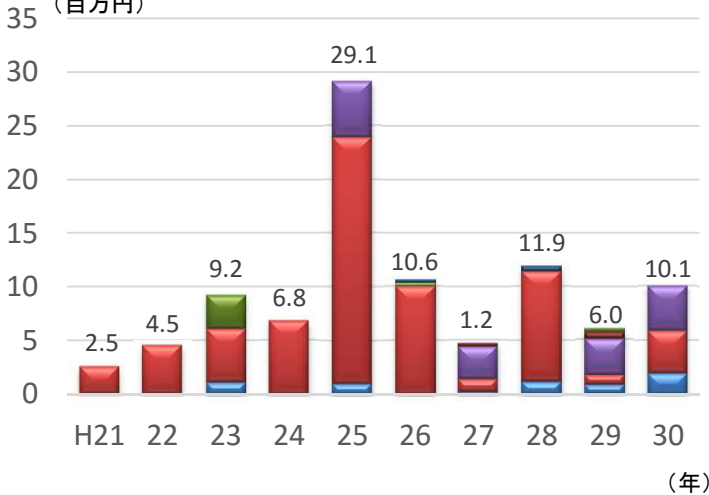
なまこ

(百万円)



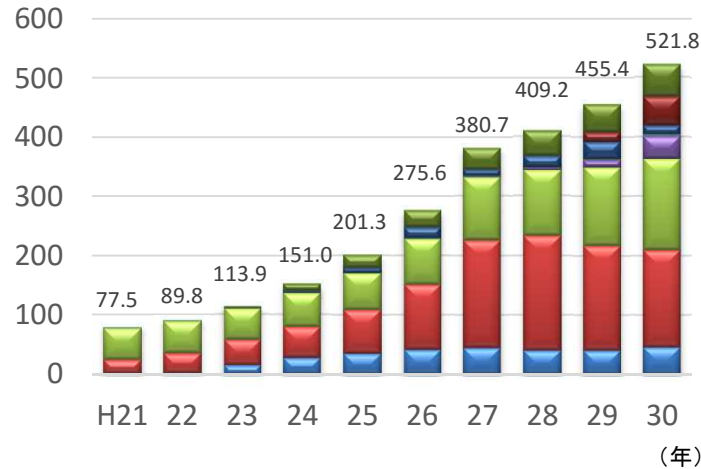
もずく類

(百万円)



ビール

(百万円)



■ 香港 ■ 台湾 ■ アメリカ ■ 中国 ■ タイ ■ ベトナム ■ シンガポール ■ 韓国 ■ その他

2 沖縄からの農林水産物・食品の輸出拡大の方向性イメージ

沖縄県入域外国人観光客数※1；

38万人(2012年度)→290万人(2018年)

沖縄へのクルーズ船寄港回数※2；

125回(2012年)→515回(2017年)

→528回(2018年:対前年同期比13回増)

出典：※1 沖縄県資料 ※2 沖縄総合事務局開発建設部資料



(観光や輸出をめぐる最近の情勢)

クルーズ船の急増等による
外国人観光客の増加

アジア圏の
所得水準の向上

「和食」の
認知度向上

(沖縄の強みと特色)

特色ある農林水産物・食品

- ・亜熱帯性の気候を活かした多彩な農林水産物
- ・伝統的な島野菜や食文化



東アジアの中心に位置する地理的優位性を活かした物流機能

- ・沖縄国際貨物ハブ(ANA)
- ・アジアにおける宅配便網(ヤマト運輸)



ANA HPより

農林水産物・食品の“ショーケース”機能

急増する外国人観光客(インバウンド)への販売を通じた輸出拡大とともに、海外での販売・PRを通じた沖縄の魅力発信など観光との連携による相乗効果の発揮

- ・外国人受入のための人材確保・育成
- ・旅客船ターミナル等ハード面の整備
- ・観光産業との効果的な連携



美ら海水族館HPより

更に発展

全国の産地との連携・輸出国ニーズへの対応

全国の産地と連携した強みのあるマーケティングや加工・調理、ハラル認証などによる高付加価値化及び輸出国ニーズへの対応

- ・旬を繋ぐ産地リレーや特産品のコラボレーションなどによる魅力的な商品づくり
- ・商談会や海外ショッピングサイトなど様々なチャンネルを通じた販路開拓
- ・ハラルやHACCPへの対応



沖縄県物産公社資料より

【相乗効果】
インバウンド・輸出拡大
↓↑
沖縄のファンづくり・観光客呼込

観光

連携

全国の産地

【相乗効果】
全国特産品×県産品・加工
↓
オリジナル商品

沖縄農林水産物等の輸出拡大・オールジャパンの輸出目標実現に貢献